

画像を表示するには

img 埋め込み画像

タグ
HTML ``
XHTML ``

画像を表示するには、「img要素」を記述します。空要素なので内容はありません。src属性で画像を指定します。使用できる画像の形式には、GIF形式やJPEG形式、PNG形式などがあります。ブラウザに画像が表示されない場合や音声ブラウザを利用しているユーザーのために、alt属性で画像の代替テキストを記述します。

HTML

```
<body>
<p></p>
<p>市民のみなさまの施設です。豊かな地域コミュニケーションの場として幅広くご利用いただけます。</p>
<p></p>
</body>
```

※XHTMLの場合はimg要素の最後を「/>」と記述します

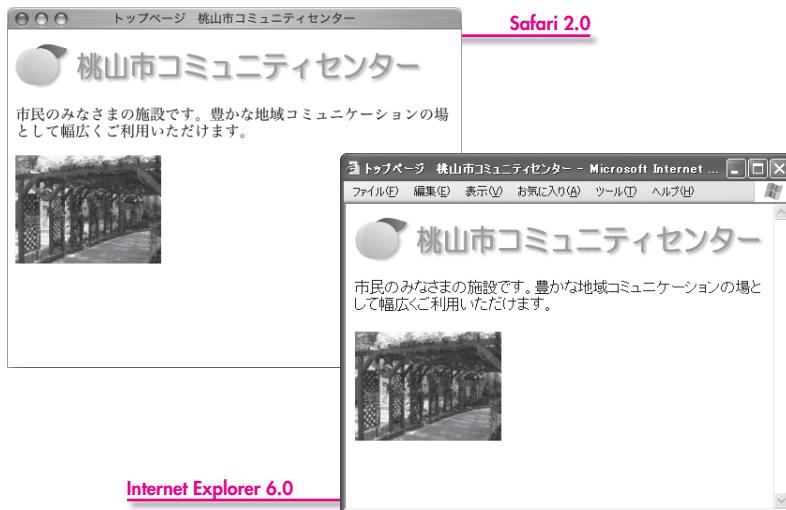
きっと役立つ!

ファイルの指定

ほかのファイルを指定するには、一般的に「相対パス」を使います。相対パスは、作成しているWebページが保存されているフォルダを基準に、ファイルを指定する方法です。

代替テキスト

画像の代替テキストは、画像が表示できない場合に表示させたり、音声ブラウザが画像の代わりに読み上げたりする文字列で、画像の説明ではありません。たとえば、会社やWebサイトのロゴの画像に「alt="ロゴ"」と指定しても意味がありません。会社やWebサイトのロゴの代替テキストは、会社名やWebサイト名が適切です。また、画像の近くに画像の代わりになる文字列がある場合や、裝飾するための画像で画像そのものに意味がない場合は、「alt=""」として、値を空にします。alt属性は、img要素には必ず記述する必要があるため、省略してはいけません。



属性

src(必須)	画像のファイルのパスを指定【src="ファイルのパス"】
alt(必須)	画像の代替テキストを指定【alt="代替テキスト"】
longdesc	画像の内容がグラフなどで、長文の説明が必要な場合に、その説明が記載されている該当ページを指定【longdesc="ファイルのパス"】
name	画像の名前を指定【name="名前"】 ※XHTMLの場合はid属性で記述 HTMLとの互換を保つためにname属性とid属性の両方を記述
width	画像の幅をピクセルまたは%で指定【width="幅"】
height	画像の高さをピクセルまたは%で指定【height="高さ"】
usemap	画像をイメージマップとして使う場合に指定。画像にイメージマップを対応させるため、map要素のname属性で指定した名前を「#」に続けて指定【usemap="#名前"】 ※XHTMLの場合はmap要素のid属性で指定した名前を指定
汎用属性	id, class, dir, title, style, lang, xml:lang(XHTMLのみ) ※P.9参照

Reference

map要素→P.71「イメージマップを作るには」
floatプロパティ→P.155「画像の横に文字を回りこませるには」
positionプロパティ→P.157「画像と文字を重ねるには」
ファイルの指定→P.9「絶対パス・相対パス」

HTML	XHTML	要素の種類	IE 6.0	Firefox 1.5	Opera 8.5	NN 7.1	Safari 2.0
S T F	S T F	インライン要素					